

重誓寺報

号外

令和2年2月発行

浄土真宗 本願寺派 (西本願寺) 重誓寺
じゅうせいじ

大阪市旭区中宮2丁目4番19号
電話・FAX 06(6951)0090

令和二年一月二十

七日、重誓寺前住職

瑞誓院釋尚文 (島

津尚文) が往生いた

しました。これまで

賜りましたご厚情に

対しまして感謝申し

上げますとともに、

今後とも重誓寺の護

寺、またご聴聞に励

まれますことをお願

いいたします。

重誓寺では毎月二十日に常例法座を行っています。いつも本堂の内陣で私(住職)の向かいに父が座り一緒にお勤めをします。ご存知かと思えますが、前からかなり耳が遠くなっていましたので、皆のお経が聞こえず、一人違う所をお勤めすることがしばしばありました。

昨年七月、法座前恒例の散髪に行き、内陣出勤いたしました。しかし暑さが堪えたのか、八月になると次第に床につく時間が多くなります。秋以降はすっかり起きる事が出来なくなり、食事も摂れなくなり、お医者さんに処方された液体の栄養ドリンクのみで体を維持している状



態となります。それでも、どこが悪いということはなく、治療するところも無いと言われました。

逆に、生きようとする生命力に驚かされる日々でありました。

亡くなる日、朝まで変わらないように見えましたが、夕方から急に意識が遠くなり、最後は静かに息を引き取って行きました。

昭和三年一月七日に生まれ、九十二年の生涯でありました。

龍谷大学

前住職は寺の一人っ子として生まれ、厳しい時代に育ち大学時代がちょうど第二次世界大戦の時代となります。大阪が空襲を受けていると聞き、慌てて帰ると本堂が丸焼けになるのを目の当たりにしたようです。そんな時代、どのように勉強したのかわかりませんが、後に中学校で英語の教師としてしばらく勤めていました。地元の学校ですから未だに先生と呼んで下さる方が多く居られます。

龍谷大学の仏教学を卒業し、全国に同級生がおられました。白線会と称した同窓会は毎年、各地で行われ楽しみに参加していました。しかし年を重ねるうちに、参加者が減って行くのは当然で、いつしか開催されなくなっていました。先日、残っているのはあと大阪の某氏くらいかなと話している中、その方の訃報が届きました。そのことを父には知らせませんでした。その四日後、追うように父が往生いたしました。

今頃、全員集合したお浄土で、楽しく同窓会が開催されていることだと思えます。私たちは阿弥陀様の誓いによって、往生が定まり、また会えると約束された世界が、お浄土なのです。



運転免許

近年、高齢者による交通事故が頻繁に報道されます。自分は大丈夫と思いつながらも、どうしても注意力や運動能力が低下してしまいます。自ら免許証を返納される方も多くなっているようです。

前住もお参りで遠方に行くことがありましたので、車やバイクは常に乗っていました。しかし高齢になると家族としても心配していましたが、決して自ら免許返納とは言い出しませんでした。

八十七歳の誕生日に免許更新のため警察署に行くと、本人曰く、「大勢の警察官に囲まれて返納するよう説得され」て、渋々更新を諦めたようです。

ただそのことが余ほど悔しかったのでしよう。お参りする先々で愚痴をこぼしていたと聞かされました。

でもお陰で人様に迷惑をかけずに済んだとその時の警官に感謝しています。



50年以上前、最初の車
マツダキャロルと現住職

葬儀

この度のお葬儀では、少しでも多くの皆様にお参りして頂けるよう、本堂や境内を一杯使用しました。そんな中、あるご門徒の方から、一般の方でも本堂でお葬儀ができるのですかという質問を頂きました。

最近は家族葬の形態が多く、葬儀会館を使用することがほとんどですが、かつてはお寺でのお葬儀もたくさんありました。

お寺は仏様のことを聞かせて頂く場ではありますが、お葬儀も命というものを通して仏法に触れて頂く大切な行事であります。寺での葬儀は、大層に思われるかもしれませんが、逆に参詣者の多少に関わらず使って頂けるのではないかと思います。

戦災で焼失しましたが、皆様と共に前住が再建した本堂、有意義にお使い下さい。



無常

前住の父親であります第二十六代住職が往生したのは、私がまだ幼稚園の時でありました。実はその葬儀が幼稚園の芋掘り遠足の日と重なり、まだ事の重要さが分からない私は、なぜ芋掘りに行けないのかと駄々をこねた覚えがあります。

この度父の葬儀では、半年以上前からチケットを購入し、楽しみにしていたコンサートの日程と重なってしまいました。

親鸞聖人が九歳で詠まれたと言われる歌があります。

明日ありと思ふ心の仇桜
夜半に嵐の吹かぬものは

(今美しく咲いている桜を、明日も見ることができらるだろうと安心してしていると、夜半に強い風が吹いて散ってしまうかもしれない)

明日が来るのを当たり前に思い、日々過ごしている私たちですが、必ずやってくる後生の一大事、必ず救うと誓って下さる阿弥陀様にお任せするしかありません。

中陰

この度の葬儀に關しまして、お知らせ出来なかつたり、連絡が遅くなつた方もおられるかと思ひます。何分急なことでしたのでご容赦下さい。中陰は皆様にお参り頂けましたら幸いです。

一七日	二月一日
二七日	二月八日
三七日	二月十五日
四七日	二月二十二日
五七日	二月二十九日
六七日	三月七日
いづれも午後四時より	
七七日 (満中陰)	
三月十四日	
午後三時より	

お勤めの後、是非皆様の思い出話をお聞かせ下さい。

(約三十分)

今だから言える、前住職のエピソードなどがあれば是非お教え下さい

重誓寺 E-mail juseiji@gmail.com (携帯)

TEL・FAX 06(6951)0090